

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 12月
2011年最後の月

12月に入り、今年も残すところあとわずかになりました。2011年は、悲しい出来事が起こった年でもありました。3.11 東北関東大震災があり、多くの人達が犠牲になりました。2011年3月8日にこのプログラムの奨学生に選出されたという報告をいただき、その3日後の3月11日に、地震が起こり様々な思いが駆け巡りました。長年の夢であったアメリカ留学が決まり、喜びを表に出したい気持ちと、日本が未曾有の危機の中、家族や友人を残して自分だけがアメリカで勉強してもいいのだろうかという気持ちで板挟みの状態でした。そんな中、励ましの言葉を多くの方から掛けていただき、やるぞという気持ちでアメリカに来ることができました。こちらに来てからの4か月間で、色々経験してきましたが、このような経験ができるのも多くの人の支えがあつての事だということをしかりと認識し、学べることをしかり学んで2012年を気持ち良くスタートが切れるように過ごしていきたいと思います。今月は、冬期休暇前半に行ったインターンシップの内容とアメリカのクリスマス、また、休暇後半に旅した場所について報告したいと思います。

大学の冬期休暇は16日から始まりましたが、上司のジェリーに相談し24日まで、ニッシンブレーキでインターンシップをさせていただけることになりました。会社では、大掃除や切削機の導入・設定があり、非常に忙しい時期でしたが、普段ではできないことを経験できる絶好の機会でもありました。切削マシンの設定の合間、その構造についてジェリーに丁寧に教えてもらいました。ニッシンブレーキでは、治具（工作物を固定する装置）が二つある切削マシンを使用しています。治具が一つの切削マシンと違い、治具が二つあるものでは片方の治具で工作物を切削している間、もう一方の治具に工作物を取り付けたり切削カスを取り除いたり、次の切削の準備ができるので時間をロスすることなく効率良く製品を生産することが可能だということ学びました。初期投資だけを見ると、治具が一つのものよりも高額ですが、結果的にその生産性で初期投資額を取り戻せるそうです。また、切削マシンには個体差があるためマシンに入力した寸法と加工後の寸法にズレがでてしま



うことがあります。図面の寸法と許容範囲内でない加工済み製品の寸法を照らし合わせながら、どの方向にズレがあるかを求める仕事も手伝わせていただきました。冬休み中のインターンシップは忙しく大変でしたが、その分だけ多くの事を学ぶことができました。

・クリスマス

クリスマスは、アメリカで最大規模のイベントです。12月になるとクリスマスモード一色になり多くの家で装飾をし始めます。アメリカの装飾は、日本と比べるとかなりの量で夜になるとまぶしい家も中にはありました。クリスマスが終わった後もしばらくは、装飾を外さずしておくそうです。クリスマスイブはアメリカ人の友人宅で行われたパーティーに参加させていただき、友人の家族が集まったこのパーティーでは、日本の文化とアメリカの文化についての話で盛り上がりました。アメリカ人はクリスマスに家族と過ごすことが一般的だが、日本人は友人や恋人と過ごすこと一般的な事や、日本人は正月に家族と過ごすことが一般的だが、アメリカ人は友人や恋人と遊びに行くことが一般的など興味深いことがお互いわかりました。その後、クリスマスツリーの下に置いてある名前付きのプレゼントをそれぞれの人に配り、一人ずつ順番に開けていきました。クリスマスイブの喜びをアメリカの人達と共有した事は、アメリカについてもっともっと学びたいと思わせてくれる心に残るひとときでした。



・ピッツバーグ ペンシルバニア州

冬期休暇中、友人と車でピッツバーグに行きました。ピッツバーグには、歴史的建築物が多く存在しており、フィンドレーとは違った町の雰囲気があります。全米で一番住みやすい町一位にノミネートされたこともあるこの町の佇ま

いはとても美しく建築で有名な町でもあります。特に印象的だったのが、日本の旧帝国ホテルを設計した事で有名な建築家フランク・ロイド・ライトが1939年に建てた落水荘（フォーリングウォーター）で、自然と家が一体となった空間はまさに圧巻でした。

